沿岸域におけるPublic Involvement

～感性工学手法を用いて～

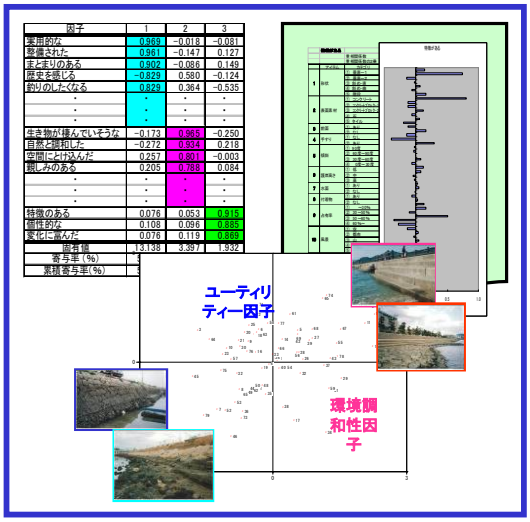
公共事業により実施された沿岸域整備や改修結果を、住民により評価することが求められる時代になりました。あいまいな住民の気持ちをとらえ、正確な評価を行なうのは容易ではありません。しかし、住民の感性のあいまいさを利用する感性工学という評価手法を用いることにより定量的な評価が可能となります。

感性工学の定義:「*感性を設計の具体的な内容に置換する技術*」

つまり、人間が持っている感性を把握して、それを物理量に置き換えてデザインスペックに表現し、全体としての設計を実現する工学的手法である。

《広島国際大学　人間環境学部長　長町三生教授》

感性商品



特徴①　住民の感性構造が把握できます

住民参加・合意形成を行なううえで最も重要な要素は住民の感性構造を把握することです。感性工学手法によるアンケートを行い、定量的に把握することが難しいとされている住民感性構造を把握します。

特徴②　住民の感性の視覚化が可能

得られたアンケート結果を分析し、散布図にすることで住民感性の視覚化が可能です。視覚化を行なうことで、感性構造がより具体的に把握できます。

特徴③　住民の感性を設計要素に翻訳

多変量解析を行ない、住民感性と設計要素の翻訳を行ないます。

影響の強い、住民感性と設計要素の関係を分析することで、住民合意形成をさらに効果的に推進します。

景観評価

港湾護岸や河川護岸について、感性工学手法によるアンケートを実施し、住民感性構造を把握し、景観評価を行なえます。

また、住民感性をデザイン要素に翻訳することで景観設計も可能となります。

KANSEI System

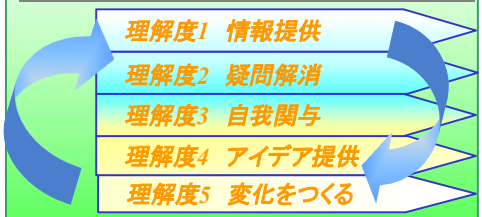
住民の感性情報をデータベース化することで、アンケートの実施時間の短縮・実施会場の自由化が可能です。KANSEI Systemを用いることで、より多くの住民の協力を得やすくなります。

また、感性に近い写真サンプルを表示するなどの、創造支援ツールとしても活躍します。

住民参加支援ツール

PIとは、「行政施策の立案等に際して、一般の方々にも施策形成の過程に参加いただいて、より民意を反映した施策の現実を図る手法」

《国土交通省関東地方整備局》



感性工学手法による評価・住民感性調査を実施することで、より効果的な住民参加を促し、住民合意形成を図ることができます。

感性工学手法による住民参加型事業は、住民自身による事業評価を通して事業終了後も途切れることなく続きます。公共事業の評価を住民の感性で行なうことができ、改善点の発見に至ります。

学会発表実績	「感性工学手法を用いた護岸評価に関する基礎的研究」	第４回日本感性工学会(2002)
	「河川護岸の景観評価に関する研究」	第54回土木学会中国支部大会(1999)

ご意見・お問い合わせは　info@mikuniya.co.jp
www.mikuniya.co.jp

日本ミクニヤ株式会社

事業本部　〒213-0001　川崎市高津区溝口3-25-10　TEL　044-822-3928　FAX　044-822-1661
東京支店　TEL 044-822-3928 FAX 044-822-1661　広島事業所　TEL 082-251-3928 FAX 082-251-3988
大阪支店　TEL 06-6572-3928 FAX 06-6572-3943　九州事業所　TEL 092-481-3928 FAX 092-481-3938

021125-H